

～私たちの水戸っぼライフ～

未来ビジョン

課題のまとめ

- 歴史の中で育まれた水戸っぼのマインドを大切に
- 水戸らしいコンテンツの充実で居場所づくりを
- SDGsや人中心のまちづくりの社会的ニーズへの対応を
- 人中心のまちかにするための空間デザインを
- まちなかの用途や交通体系などの都市構造の改変を

まちなかの方向性

- 都市構造の改変でコンパクトシティの実現を
- ウォーカブルな空間づくりで居心地が良く歩きたくなるまちなかへ
- 挑戦心を育むまちなかへ

未来ビジョン全編公開中

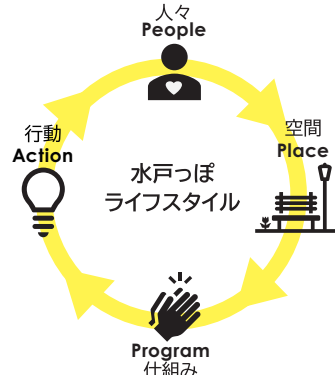


水戸のまちなか再生計画

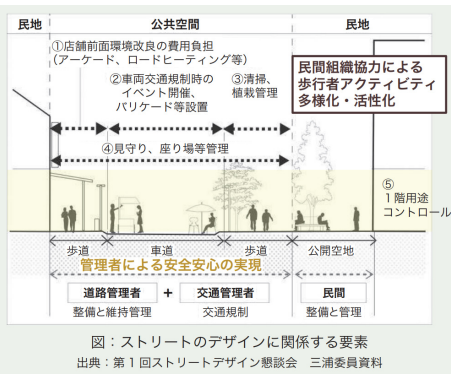
CONCEPT

～私たちの水戸っぼライフ～
挑戦心を育む、コンパクトなまちなか暮らしを取り戻す

挑戦心を育むサイクル

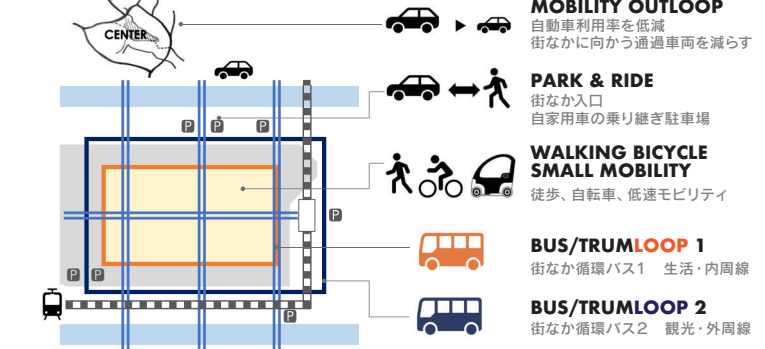


ウォーカブルな空間づくり

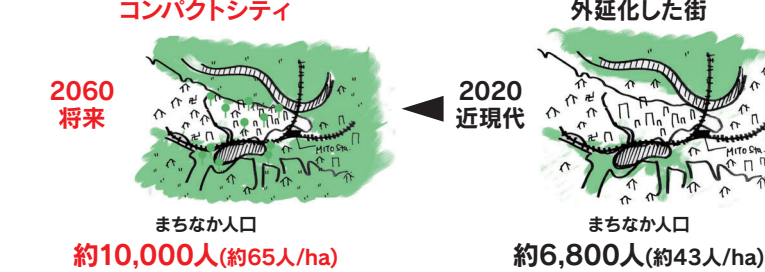


コンパクトシティの実現

交通体系の提案



都市構造の変革



今後の対策・展開

- 安全環境づくり (社会実験・データ活用事業)**: 道路のハンパ先行導入 (公共)、ParkingParkを見据えた南阿由広場でのまちなかチャレンジ (民間・個人)、協賛者による事業継続 (民間・個人)。そして事業効果の検証。
- 共感者づくり (プロモーション・情報発信事業)**: 地権者や事業者の意識を高める事業の事例紹介、創業希望者とのミーティング、共感者を増やす講演会等の開催。
- 賑わいづくり (社会実験・データ活用事業)**: 空き店舗活用のスキームづくりとして、モデル事業の候補箇所選定、チャレンジショップ開設に係る所有者協議、等。また様々なコンテンツの実験的誘致、等。さらに、チャレンジャーが自ら稼げる仕組みの構築。
- 組織づくり**: 協議会構成員の役割分担を明確にし、一つの組織としてまちづくりに係る必要がある。その上で、将来的な法人化を目指した組織体制のあり方を検討する。
- 共感のムーブメントを**: 社会実験・データ活用事業とプロモーション・情報発信事業を継続的に同時進行させ、その中で組織体制の整備、場とコンテンツの用意、プロモーションを行い、成果を出し続ける。それにより、継続的にチャレンジする息の長い取り組みが可能になり、まちなかを抜本的に変えるムーブメントにする。

2022.3.31 Vol.08 発行:水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会事務局(株式会社まちなみとラボ) 水戸市南町1-2-32 M-WORKビル Tel.029-388-1580 編集:同協議会 魅力発信・デザイン検討委員会、TRIX MAG編集局

まちなみとラボが提案する水戸のキュレート・ポータルサイト「TRIX MAG [トリックスマガジン]」

「TRIX MAG [トリックスマガジン]」では、まちなかで活動する各分野のキーマンのコラムやMapiNavi [マピナビ] 編集部による特集記事を中心に、ピックアップイベントの紹介、今日明日・週末のイベントがピンポイントで検索できるイベントサーチ、バイリンガルの水戸の観光案内情報など様々なコンテンツをご用意しています。ぜひ、ブックマークしてみてください。イベント情報もぜひお寄せください。

タイアップ記事広告、バナー広告スポンサー募集中! / 掲載イベント受付中! http://trix-mag.com/?page_id=325

<http://www.trix-mag.com>

TRIX MAG. paper はウェブサイトTRIX MAG. [トリックス マガジン]と連動して不定期発行するフリーペーパー。TRI=3、X=10 で310=水戸を表し、水戸芸術館でもタワーのモチーフになっている10個の三角形をあしらっています。アートや音楽、演劇、映画、ライフスタイルのカルチャーコラムを中心に、水戸のまちなかで行なわれる催しの情報を発信していきます。



Photograph: Graphy Inc. 新井達也

第2回水戸まちなかデザインシンポジウムを開催 試行・実証実験の報告と検証、今後の展望、そして未来ビジョンへ

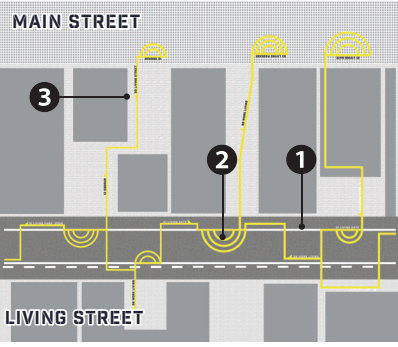
2022年3月6日、「第2回水戸まちなかデザインシンポジウム」を開催しました。今回のシンポジウムでは、2021年10月に実施した試行・実証実験「水戸まちなかリビング作戦」の内容や検証結果を紹介しました。検証結果については、ストリートサインによる歩行者や車両への効果に関する交通データと、来場者へのアンケート・ヒアリングによる試行・実証実験に対する評価を報告しました。交通データは、車両の交通量や歩行速度、歩行者の交通量や歩行軌跡、位置等についてAIの画像解析結果を、また来場者へのアンケート・ヒアリングについては、「水戸まちなかリビング作戦」に関するアンケート、実験会場別レポート、会場利用者へのヒアリング、店主へのインタビュー等の結果を報告しました。その後、関係者らによるトークセッションを行い、継続的な社会実験の必要性や持続可能な組織づくり、SDGsなどへの対応などが提案されました。(シンポジウムの様子はYouTube「水戸まちなかチャンネル」にてご覧いただけます。)

試行・実証実験の検証結果やシンポジウムでの提案などを踏まえ、未来ビジョンを取りまとめました。TRIX MAG本号では「第2回水戸まちなかデザインシンポジウム」の振り返りとして、試行・実証実験の検証結果や各実験会場の様子、そして未来ビジョンと今後の取り組みについてご紹介いたします。

PROJECT REPORT 試行・実証実験「水戸まちなかりビング作戦」(場所:水戸市南町2丁目・3丁目南側大通り・裏通り、南町自由広場ほか / 期間:2021年10月9日~10月31日)検証結果

ストリートサインによる歩行者や車両への効果

ストリートサイン実験概要



- 安心して歩ける裏通りに。
 ①白線移設による歩行者空間の拡張
 (0.65m→1.35m)
 ②車両に減速・注意を促す黄色ライン
 (半円の路面サイン)
 ③まち歩きを促す黄色ライン
 (直線の路面サイン)

の3つを同時に実現するストリートサインの実験です。

歩行者視点

実験以前(白線移設前)の
 歩きやすさ (N=124)
48.4%の歩行者
 が歩きにくい
 変化なし:10.5%、歩きやすい:21.0%

白線の移設や黄色ライン後の
 歩きやすさ (N=124)
42.7%の歩行者
 が歩きやすい
 変化なし:46.8%、速度促進:10.5%



ドライバー視点

平均速度(ETC2.0データ)
1.1km/h減少 17.6km/h
 16.5km/h
 検証箇所:南町2丁目裏通り

車両速度
25km/h以上の割合減少
 検証箇所:南町2丁目裏通り

白線の移設による車両速度変化(N=77)
37.7%の車両が速度抑制
 変化なし:61.0%、速度促進:1.3%

黄色ラインによる車両速度変化(N=77)
36.4%の車両が速度抑制
 変化なし:62.3%、速度促進:1.3%



黄色ラインによる歩行者への注意意識(N=77)
45.5%の車両が意識向上
 変化なし:53.2%、速度促進:1.3%

来場者へのアンケート・ヒアリングから見る試行・実証実験に対する評価

利用者

実験会場利用満足度(N=46)
93.5%
 実験期間後も97.8%が継続して利用したい

未来ビジョン素案の共感度(N=113)
 分からない:20.4%
78.8%共感しない:0.9%
 5-6月実施のアンケートでは約60%の支持

取り組みの継続希望(N=113)
 居住地・通勤通学地が
 水戸のまちなかであるかに関わらず継続を希望する者
92.9%

将来(60歳以降)の暮らし(N=113)
 徒歩中心の
 まちなか **85.0%** 車中心の
 郊外部 **15.0%**
 多くの方が徒歩中心のまちなか暮らしを選択

商店主(南町2・3丁目大通り、南町2丁目裏通り)

人通りの変化(N=33)
42.4%の商店が
 「増えた」と回答
 変化なし:57.6%、減少:0.0%

来客数の変化(N=33)
18.2%の商店が
 「増えた」と回答
 変化なし:81.8%、減少:0.0%



Q 実験が始まってから生活に何か変化はありましたか?

- A**
- まちなかに出る回数が増えた。
 - 子どもと自由広場でおやつを食べるようになった。
 - 子供がまちなかで遊ぶようになった。(LIVING PARKなど)
 - あまり散歩で歩きたがらない犬を放せるので、ここ(DOG LIVING)に来るのが日課になった。
 - 知り合いが増えた、友達に会った。
 - LIVING PASSAGEを通って裏通りに通るようになった。
 - 歩くことで車からは気づかなかつたまちの変化に気づいた。
 - 車のスピードを落とすようになった。
 - 黄色の線が気になるようになった。
- など



検証結果

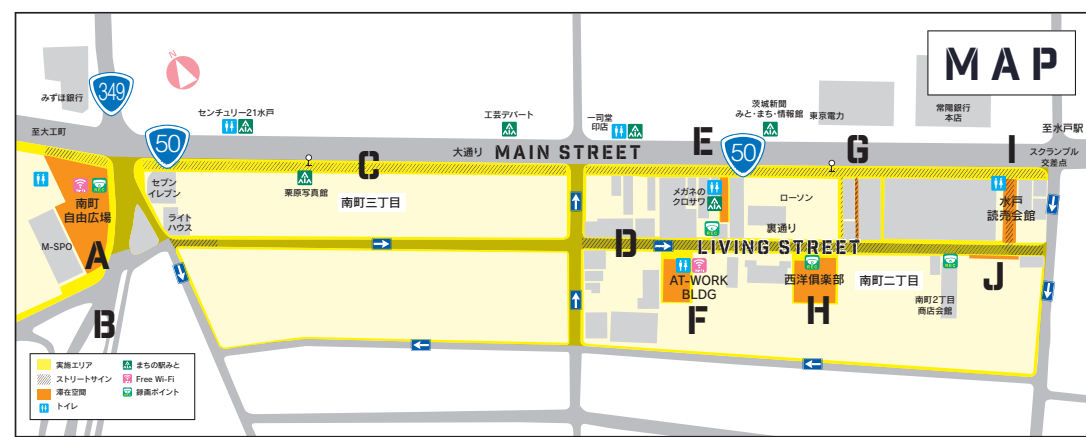
●ストリートサインによる歩行者や車両への効果

Wi-FiやAI画像解析など最新テクノロジー等を活用して、多様なデータによる分析を行いました。解析結果として全体的に歩きやすい道路空間に寄与した傾向が確認されました。

●来場者へのアンケート・ヒアリングから見る試行・実証実験に対する評価

来場者の取り組みへの満足度は高く、継続の要望・期待の高さが見受けられました。本実験をきっかけに新たなコミュニティやまちなかに出る機会が生まれ、まちなかの新たな可能性・日常の魅力を感じていただけたと考えられます。

取り組みに対する否定的な声はごくわずかだった一方で「分からない」という回答が一定数確認され、まちなか居住者・事業者の方々には、このような取り組みが「自分ごと」になるまでには至っていない面もみられました。今後、より丁寧に取り組みの趣旨をお伝えし、共感の輪を広げていく必要があります。



●詳細はこちらから
 シンポジウムの様子は
 YouTubeチャンネルにて
 配信中



「水戸まちなか
 リビング作戦」
 PR動画公開中



「水戸のまちなか大通り等
 魅力向上検討協議会」HP
 (実験概要・検討体制・協力企業一覧)



WORK LOUNGE
 「水戸まちなかデザイン会議」で掃除を実施
 テーブルやチェアを増設し、快適な半屋外ワークスペースに



ROOFTOP PARK
 AT-WORKビルオーナー全面協力のもと、緑に囲まれた屋上空間を無料開放
 水戸の絶景を見晴らせる滞在空間に「まちなかチャレンジ」のカフェが展開
 アンケートでの快適度の評価が全会場の中で最も高かった



LIVING STREET
 白線を引き換え、歩行者空間を拡張
 路面サインの設置で安心して歩ける裏通りに



DOG LIVING
 まちなかに暮らす飼い主と愛犬のために空き地を
 ドッグランとして整備し、無料開放(小型犬限定)



LIVING PASSAGE
 暗くて通りにくかった通路を、風を活かした
 光と音のデザインにより楽しめる通路に



INFORMATION
 道路脇の余剰空間を、本実験の趣旨や未来ビジョン素案について
 紹介する展示スペース兼滞在スペースに



LIVING GATE
 読売会館ビルオーナー全面協力のもと
 誘導サインで貫通通路に案内



DOGRUN (市営)
 実験に合わせ、水戸市が開設
 道路沿いの緑地を活かしたドッグランは、
 高低差のある広々とした地形が反響を呼んだ



LIVING PARK
 植栽や什器などを設置し、使いやすいパブリックスペースに
 「まちなかチャレンジ」も相まって以前にはなかった過ごし方が見られた



MAIN STREET
 路面サイン設置により裏通りへのつながりを演出
 フラックによる一体感の創出や縁台による居場所作りを施した